

## 観光と産業が融和する大地

### コンセプト

九州には歴史と豊かな自然があり、高いレベルの工業力を併せ持っている。これを有効に将来のために生かさなければ、折角の技術がもっていない。自然環境保全・資源保護と将来の工業力発展のために、この技術を生かすための手立てを考えてみました。

私は1年半ほど前に北海道から九州に転勤してきました。54歳にして初めての転勤です。環境の違いに若干の戸惑いもありましたが、通年緑豊かな自然環境の中で過ごせるのも、九州の魅力と感じました。

北海道との違いは、一年中緑豊かな自然に接することができ、川も海も湖沼も全く凍らないという事です。数々の観光資源を抱え、水面の利用が年間を通じて可能だという事です。九州・沖縄は北国に住む人達にとって憧れの地なのです。

最近、九州・沖縄の輸送力が限界に近づき、空港の建設或いは空港建設計画の是非が華やかに論議されておりますが、他に解決する方法が無いかを考えてみました。空港はビジネスで利用する方々や、観光目的の人たちが沢山居ます。

自然豊かな景観、古の歴史を刻み先人が大切にしてきた環境が売り物の九州・沖縄に飛行場の建設を行い、珊瑚礁をつぶしたり、海岸線を人工物で覆ったり連続性のある景観を飛行場で断ち切ったりして、景観という観光資源を低下させては何もなりません。

今の輸送力の何割かを増強できれば、観光客の誘致拡大は充分可能だと思います。輸送の手だては現在の旅客機のみではなく、さまざまな方法を検討する必要があると思います。様々な制約はあろうかと思われませんが、一例を挙げると飛行艇も使えるのではないのでしょうか。日本の飛行艇の技術は世界一で、波高3m迄離着水可能だと言われています。まして、内海や湾の多い九州沖縄では絶好の条件だと思います。

この飛行艇を定期運行に供すれば、目的とする観光地への輸送手段としてだけでなく、世界でただ一つ定期運行している旅客飛行艇に乗ることそのものを、観光に組み入れる事が出来るのではないのでしょうか。例えば「沖縄へ観光に行くではなく、飛行艇に乗って沖縄へ観光に行く」という広がりを持たせる事が出来るのではないのでしょうか。

また、飛行艇は条件が揃えば海面でも湖面でも離着水が可能です。先日、山火事でヘリコプターによる消火活動がテレビ放映されていました。

ヘリコプターより飛行艇の方が圧倒的に消化能力は高いのです。速度が速い、積載量が大きい、滑水するだけで大量の水が積載出来ますからサイクルタイムが短いなど、ヘリコプターと比較にならないほどの性能を持っています。

また、飛行艇はヘリコプターに比較して、速度も行動半径も大きい。海難救助にも離島のレスキューにも使えるのです。病院のない離島で住民が不便と不安を抱えて生活していても、大きな病院までの時間距離が短くなれば、不安は大幅に軽減されます。

飛行艇の信頼性が向上すれば、様々な利用方法があります。周面が海に囲まれて、日常的に飛行艇が飛び交う様な地域が九州から始っても良いのではないのでしょうか。

飛行機産業は裾野の広い産業です。これが刺激となって九州地区の商工業に刺激を与えることが出来たら、これは強力な地域活性の核となりましょう。九州地区は有効求人倍率が日本の中でも低い地域です。自然環境破壊を最小限に押さえ、更に腰の強い産業を育成出来たら、九州地区の発展に大きな追い風となることでしょう。

前に農道を拡張して軽飛行機の滑走路として利用する計画がありましたが、ことごとく失敗しています。日本は有効利用できる土地面積が狭いのです。滑走路に建設費がかかり、軽飛行機による農産物の運搬程度では、コスト競争で勝てなかったのです。

作られた人工物は完成したときから老朽化が始まるのです。しかし手を入れられた自然環境と地域に根を張った産業は、時間と共に発展し成長するのです。空港を建設するために緑を削り、美しい海を埋め立てて何を見せるために観光客を誘致しようとするのでしょうか。

飛行艇に関連して開発、製造、運用は工業のみならず観光経済を含め九州全域或いは日本の経済界に大きな可能性をもたらし、将来とも継続性の期待できる分野であることを確認します。

我々の子孫に豊かな自然環境を残し、観光資源を守りそして世界中に技術移出の基地として経済界、産業界に大きなアドバンテージを与え続けられるのは、何と素晴らしいことでしょう。